

平成30年度 沿岸環境検討会での意見対応について

令和2年2月19日



国土交通省 出雲河川事務所

■平成30年度 沿岸環境検討会での意見対応について

平成30年度の沿岸環境検討会において種々のご意見を頂いたところであるが、主な意見への対応について以下のとおり整理した。

委員名	意見の概要	対応
中村委員	飯梨川の砂を中海の覆砂材に用いる方針なのか。	飯梨川の維持掘削と中海の浅場・覆砂整備の実施時期が重なれば、島根県と協議の上で飯梨川の砂を活用することを検討する。
裕見委員	西浜佐陀箇所について、現在計画している突堤で砂を止めることは可能と考えられるが、景観を重視するのであれば、突堤と同様の効果が得られる潜堤の採用を検討してはどうか。	西浜佐陀箇所の突堤については、設置3年後にモニタリング調査を実施し整備効果等の検証実施後、施設改良が必要となった場合は、景観への配慮も併せて検討をする。
中村委員	平成29年度モニタリング調査において、大垣③地区で秋季にヤマトシジミが減少しているのはどうしてか。	平成30年度に大垣③地区における追跡調査を実施しており、平成29年度秋季にヤマトシジミの生息数が減少した要因について考察した。
佐藤委員	鳥類調査について、浅場造成前と造成後の比較が可能となる調査を実施すべきである。鳥類調査については、カモ類が多く確認される冬季における調査の実施を検討してほしい。	今後の施工予定である地区については、浅場造成前と造成後で比較できるよう夏季、秋季、冬季における鳥類調査を実施します。また、平成30年秋季から施工予定であった鹿園寺④地区については、浅場造成前として夏季、秋季の2季において鳥類調査を実施した。
國井委員	米子湾での覆砂の効果を確認するためには、覆砂をしていない場所等を対照区として調査し、データの比較を行う必要がある。	米子湾地区での今後のモニタリング調査については、覆砂を行っていない箇所を対照区に設定し、事前調査及び事後調査結果との比較を行います。
中村委員	平成16年から実施している浅場造成事業について、これまでの状況を整理し、今後の事業の方向性を見直してはどうか。	浅場造成事業につきましては、河川整備計画に基づき実施しており、残整備箇所について引き続き実施していきます。今後の事業の方向性を見直しにつきましては、モニタリング結果をふまえて検討していきたいと思っております。